

**演習問題 1.17** 次の行列で表現される線型写像  $f_A$  に対し  $\text{Ker}(f_A)$  及び  $\text{Im}(f_A)$  を求めよ。

$$(1) A = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 2 & 0 \\ 1 & 3 & 0 \end{pmatrix}$$

$$(2) A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ 3 & 2 & 8 \\ 2 & 1 & 5 \end{pmatrix}$$

$$(3) A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 2 & 0 & 0 \\ 3 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

$$(4) A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 0 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

すでに例でも取り上げているので 1 つだけ解いておきましょう。どれでもいいんですが、(3) をやり

ましょう。  $\text{Ker}(f_A) = \{ \mathbf{x} \in \mathbf{R}^3 \mid A\mathbf{x} = \mathbf{0} \}$  ですから  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$  とおいて  $\mathbf{x} \in \text{Ker}(f_A)$  となる条

件を  $x, y, z$  に関し書き下します。計算すると  $x = 0$  ができます。逆に  $x = 0$  のとき  $\mathbf{x}$  は  $\text{Ker}(f_A)$

の元になります。よって  $\text{ker}(f_A) = \left\{ \mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^3 \mid x = 0 \right\}$  です。生成系で書き直すと

$$\begin{pmatrix} 0 \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ y \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ z \end{pmatrix} = y \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + z \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \text{ となるので } \text{Ker}(f_A) = \left\langle \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} \right\rangle$$

となります。

$\text{Im}(f_A) = \{ \mathbf{y} \in \mathbf{R}^3 \mid \text{あるベクトル } \mathbf{x} \text{ に対し } \mathbf{y} = A\mathbf{x} \}$  ですから、  $\mathbf{y} = \begin{pmatrix} X \\ Y \\ Z \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$  と

すると、  $X = x, Y = 2x, Z = 3x$  となるので  $\mathbf{y} = \begin{pmatrix} X \\ Y \\ Z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x \\ 2x \\ 3x \end{pmatrix} = x \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$  なので

$$\text{Im}(f_A) = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \right\rangle \text{ となります。}$$

**演習問題 1.18**  $U, V, W$  を  $\mathbf{R}^3$  の部分空間とする。  $f: U \rightarrow V, g: V \rightarrow W$  を線型写像とすると、合成写像  $g \circ f$  も線型写像であることを示せ。

$f: U \rightarrow V$  が上への 1 対 1 写像であるとき、逆写像  $f^{-1}$  も線型写像であることを示せ。

$g \circ f$  が線型写像であることを示すためには

(1) 任意の  $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in U$  に対し  $g \circ f(\mathbf{u} + \mathbf{v}) = g \circ f(\mathbf{u}) + g \circ f(\mathbf{v})$

(2) 任意の  $\mathbf{u} \in U$  と任意の実数  $\alpha$  に対し  $g \circ f(\alpha \mathbf{u}) = \alpha g \circ f(\mathbf{u})$

の 2 つを示せばよい分けです。(1) は  $g \circ f(\mathbf{u} + \mathbf{v}) = g(f(\mathbf{u} + \mathbf{v}))$  なので、ここで  $f$  が線型写像か

ら  $f(\mathbf{u} + \mathbf{v}) = f(\mathbf{u}) + f(\mathbf{v})$  が分かるので、これを代入すると、 $g(f(\mathbf{u}) + f(\mathbf{v}))$  が得られ、更に  $g$  が線型写像という事を用いると  $g(f(\mathbf{u})) + g(f(\mathbf{v})) = g \circ f(\mathbf{u}) + g \circ f(\mathbf{v})$  が得られます。(2) も同様で、 $g \circ f(\alpha \mathbf{u}) = g(f(\alpha \mathbf{u})) = g(\alpha f(\mathbf{u})) = \alpha g(f(\mathbf{u})) = \alpha g \circ f(\mathbf{u})$  となります。

$\mathbf{y}_1 = f(\mathbf{x}_1), \mathbf{y}_2 = f(\mathbf{x}_2)$  とおくと  $\mathbf{y}_1 + \mathbf{y}_2 = f(\mathbf{x}_1) + f(\mathbf{x}_2) = f(\mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2)$  となります。この事から  $f^{-1}(\mathbf{y}_1 + \mathbf{y}_2) = \mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2 = f^{-1}(\mathbf{y}_1) + f^{-1}(\mathbf{y}_2)$  が出来て来ます。これは  $f^{-1}$  が線型写像の定義の (1) を満たしている事を示しています。また  $\mathbf{y} = f(\mathbf{x})$  とおくと、 $\alpha \mathbf{y} = \alpha f(\mathbf{x}) = f(\alpha \mathbf{x})$  なので、 $f^{-1}(\alpha \mathbf{y}) = \alpha \mathbf{x} = \alpha f^{-1}(\mathbf{y})$  となります。よって  $f^{-1}$  は線型写像になります。

**演習問題 \*1.19**  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$  とする。 $\mathbf{x}$  を軸にした  $\theta$  回転で与えられる写像を  $f$  とする。この

とき  $f$  の表現行列を求めよ。

幾何的な条件から直接求めるのは難しそうです。「直接」とは  $\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3$  を基本ベクトルとするとき、幾何的な条件から  $f(\mathbf{e}_i)$  を直接計算する事を意味します。

次の様に考えましょう。 $\mathbf{x}$  軸を  $z$  軸に写す長さを変えない線型写像を  $g$  とします。 $z$  軸の周りでの  $\theta$  回転の写像を  $f_\theta$  とすると、 $g^{-1} \circ f_\theta \circ g$  は  $f$  と一致します (各自納得して下さい)。 $z$  軸に関する  $\theta$  回転を表現する行列  $X$  はすでに得られているので、 $g$  を表現する行列  $B$  を求めれば、 $f$  を表現する行列  $A$  は  $B^{-1}XB$  となります。

$g$  を表現する行列を求める事を考える。といってもこの様な  $g$  は色々あるので 1 つ決める必要があ

る。次の様に  $g$  を決める。 $\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2, \mathbf{v}_3$  を長さが 1 でお互いに直交するベクトルで  $\mathbf{v}_3 = \frac{1}{\sqrt{3}} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$

とする。このとき  $\mathbf{v}_i$  を  $\mathbf{e}_i$  ( $i = 1, 2, 3$ ) に写す写像を  $g$  とする。このとき  $C = (\mathbf{v}_1 \mathbf{v}_2 \mathbf{v}_3)$  とおくと  $C\mathbf{e}_i = \mathbf{v}_i$  ( $i = 1, 2, 3$ ) なので  $C$  は  $g^{-1}$  を表現する行列になっている。よって  $B = C^{-1}$  が解る。 $\mathbf{v}_3$  と

直交するベクトル  $\mathbf{w}_1$  を探す。 $\mathbf{w}_1 = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$  とおくと内積を用いれば  $a+b+c=0$  を満たせばよい事

が分かる。ここでは  $\mathbf{w}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}$  を選ぶ。 $\mathbf{v}_3, \mathbf{w}_1$  と共に直交するベクトルを探す。 $\mathbf{w}_2 = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$

とすると、 $a+b+c=0$  かつ  $a-b=0$  を満たせばよい。ここでは  $\mathbf{w}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -2 \end{pmatrix}$  を選ぶ。 $\mathbf{w}_1, \mathbf{w}_2$

は長さが 1 でないので  $\mathbf{v}_i = \frac{\mathbf{w}_i}{|\mathbf{w}_i|}$  とおくと、 $\mathbf{v}_1 = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{v}_2 = \frac{1}{\sqrt{6}} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -2 \end{pmatrix}$  となる

$C = \begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{2}} & \frac{1}{\sqrt{6}} & \frac{1}{\sqrt{3}} \\ -\frac{1}{\sqrt{2}} & \frac{1}{\sqrt{6}} & \frac{1}{\sqrt{3}} \\ 0 & -\frac{1}{\sqrt{6}} & \frac{1}{\sqrt{3}} \end{pmatrix}$  なので逆行列を計算すると  $B = \begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{2}} & -\frac{1}{\sqrt{2}} & 0 \\ \frac{1}{\sqrt{6}} & \frac{1}{\sqrt{6}} & -\frac{2}{\sqrt{6}} \\ \frac{1}{\sqrt{3}} & \frac{1}{\sqrt{3}} & \frac{1}{\sqrt{3}} \end{pmatrix}$  と

なるので, 求める行列  $A = B^{-1}XB = CXB$  は

$$\begin{pmatrix} \frac{2}{3} \cos \theta + \frac{1}{3} & -\frac{1}{\sqrt{3}} \sin \theta - \frac{1}{3} \cos \theta + \frac{1}{3} & \frac{1}{\sqrt{3}} \sin \theta - \frac{1}{3} \cos \theta + \frac{1}{3} \\ \frac{1}{\sqrt{3}} \sin \theta - \frac{1}{3} \cos \theta + \frac{1}{3} & \frac{2}{3} \cos \theta + \frac{1}{3} & -\frac{1}{\sqrt{3}} \sin \theta - \frac{1}{3} \cos \theta + \frac{1}{3} \\ -\frac{1}{\sqrt{3}} \sin \theta - \frac{1}{3} \cos \theta + \frac{1}{3} & \frac{1}{\sqrt{3}} \sin \theta - \frac{1}{3} \cos \theta + \frac{1}{3} & \frac{2}{3} \cos \theta + \frac{1}{3} \end{pmatrix}$$